



中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

平成31年2月13日発行 通算第77号

和歌山大会を終えて

和歌山県音楽教育連盟 副会長 藤範 登志美 (和歌山市立有功中学校 教頭)



平成30年11月8日、9日、約800名の方が徳川御三家の一つ「紀州徳川家」の城下町である和歌山市に全国からお越しくださいました。心より御礼申し上げます。

さて、本大会の大会主題は「のびる・ひろがる・ひびきあう ～実りある音楽の授業～」でした。大会主題を設定するにあたり、和歌山市中学校音楽教育研究会では、歌唱と創作の活動について約3年の時間をかけて研鑽したことが、この大会主題につながりました。本大会の主題には、一本の樹木が育っていくかのような児童・生徒の成長に寄り添っていききたいという教員達の思いが込められています。この大会主題を拠り所として、「実りある音楽の授業」を構築し、児童・生徒の学びを支援していきたいと考え、中学校部会では歌唱及び創作の授業を公開いたしました。

歌唱の授業は題材名を「情感をこめた歌い方を工夫しよう」とし、合唱曲「ぜんぶ」を教材曲として、楽譜や音そのものから知覚・感受したことが手ごかりとして作者の思いを読み取ろうとする活動に取り組みました。創作の授業は題材名を「言葉の持つリズムや抑揚を手ごかりに、簡単な旋律をつくろう」とし、自作の俳句や川柳を素材として、反復や変化などに気付き、言葉や音階などの特徴を活かし、工夫して旋律をつくることに主体的に取り組み授業を実践しました。これらの授業を模索していく過程で、中堅・若手の教員が、授業担当のベテラン教員の真摯な姿勢から多くのことを感じ取ったのではないかと考えています。最後になりましたが、お力添え下さった全ての方に感謝申し上げます。

東京大会に向けて

東京都中学校音楽教育研究会 会長 角 康宏 (葛飾区立青戸中学校 校長)



平成の時代が間もなく幕を閉じて、新しい元号が始まろうとしております。全国各支部長様、事務局長様をはじめ各地区会員の皆様方には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、2019年全日本音楽教育研究会東京大会がいよいよ開催されます。東京大会の研究発表に向けて東京都中学校音楽教育研究会では、着々と準備を進めているところでございます。本年度は、研究主題を「『主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業を目指して』～協働的な学習による、歌唱と鑑賞の授業づくり～」と設定し平成31年2月5日に東京都中学校音楽教育研究会研究発表会を府中の森芸術劇場に於いて開催いたしました。研究発表は、「歌唱(合唱)」「鑑賞」に焦点を合わせた実践を発表しました。歌唱の授業では1年生が混声三部合唱に取り組み、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目し、創意工夫して合唱しました。鑑賞の授業では1年生が3曲の日本の民謡を鑑賞し、音楽の特徴を捉え、それぞれの民謡の意味や役割について考えながらよさを味わって聴きました。どちらの授業も学習形態を工夫して協働的に学習する場面を設定し、生徒が、主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める姿を見ていただきました。

全日本音楽教育研究会全国大会東京大会(総合大会)ー全日本音楽教育研究会発足50周年記念ーは、大会主題を「つなげよう 深めよう 生かそう♪未来を拓く音楽の学び♪」と設定し、2019年10月31日(木)、11月1日(金)の2日間にわたって開催されます。中学校部会は10月31日(木)府中の森芸術劇場の4会場に於いて「歌唱(伝統的な歌唱)」、「歌唱(合唱)」、「器楽」、「創作」、「鑑賞」の5本の授業を公開し、山崎朋子先生の「合唱」、後藤洋先生の「創作」、野本由紀夫先生の「鑑賞」の3本のワークショップを企画しています。5年ぶりに開催される全国大会東京大会には是非多くの皆様のご参会をお待ち申し上げます。

Contents

- P 1 和歌山大会を終えて 藤範 登志美 / 東京大会に向けて 角 康宏
- P 2~3 和歌山大会講評
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
文化庁参事官(芸術文化担当) 付教科調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 臼井 学 氏
- P 3 中学校部会総会
- P 4~5 和歌山大会《中学校部会》 公開授業レポート・ワークショップ・記念講演
- P 5~6 和歌山大会 記念演奏・Information

発行

全日本音楽教育研究会 中学校部会
東京都杉並区城ノ内 1-3-1
杉並区立泉南中学校内
会長 風見 章

◆ 講演平 ◆

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 臼井 学 氏
日時：平成30年11月9日（木） 11：10～
会場：和歌山県民文化会館大ホール



中学校部会では「一人一人の確かな学びを生かす音楽の授業づくり」の研究主題のもと、実践的な研究を進めてこられました。大会冊子には大会主題に迫るために3つの視点が示されていますが、ここでは視点②「学びの過程を振り返ることができ、自己の変容に気づける指導と評価」について少し触れさせていただきます。

中学校部会では、この視点②にかかわって「実感」ということと「自分で振り返る」ということができるようにすることを大切にしております。音楽科の学習では音楽活動によって生徒が音楽に対する感性を働かせることが大切になり、それがなければ実感には至りません。このことは、新しい学習指導要領の解説に示している「音楽的な見方・考え方」の冒頭に「音楽に関する感性を働かせ」を位置付けていること、また、知識に関する事項イについて、「曲想や質感に伴うものとしての音楽の特徴をかかわらせて理解すること」を示していることとも関係します。したがって、実感ということが重視されることは、音楽科の学習の根底に迫る大切な視点であると思います。また、「自分で振り返ることができるようにすること」は授業改善の視点である「主体的な学び」と大きくかわるものであり、新しい学習指導要領の円滑な移行に向けて大切な視点となります。そのような意味において、この視点②から、私たちは重要な示唆をいただけたものと思っております。

それでは、昨日の公開授業、研究協議等を拝見し、感じたことについて触れさせていただきます。

はじめに表現領域 創作の脇田先生の授業についてです。

言葉のもつリズムや抑揚、音階が生み出す特質や雰囲気などを手がかりに生徒が自分のイメージをふくらませ、そのイメージを大切にしながら自分の旋律をつくっていく過程を公開していただきました。旋律をつくることに不安のある生徒でも取り組めるように、様々な手立てが講じられ、丁寧に指導されている点から多くのことを学ばせていただきました。授業の最初に先生は、「まいど」「おおきに」という言葉を使って、抑揚、イントネーションを扱っておりました。子どもたちは口では上下の変化をつけて喋ることができますが、上がったか下がったということを視覚的に表すときには少し時間がかかります。私たちは子どもたちがそうやって喋っていれば、当然わかっているものだと思います、何となく授業を進めてしまう場合がありますが、脇田先生はそこを「どうなっているかな」と投げかけ、子どもたちは実際に手を動かしたりしながら捉えていく、このような場面を丁寧に扱うことを皆さんに学んでいただければと思っています。また、子どもたちの表情が変わった場面がいくつかありました。例えば、先生が最初に作品を紹介したところです。子どもたちは、ほぼ全員が前のめりになって先生の方を見て音楽を聴いています。反復が使われているところではニコニコしていました。また、いくつかの音階を示したときや琉球音階を使った例を示したときも、非常にニコニコしていました。最後に子どもたちのつくった作品を紹介した際、西洋音階でつくったものを陰音階に変えた作品を紹介したときも、子どもたちの表情が変わっております。あの場面は、音や音楽によって生徒の心が動いた瞬間であったと捉えております。そのように考えますと、これからさらに授業改善の視点として考えていきたいことは、「50分の授業の中に音や音楽がどれだけあるか」「それによって子どもたちの心をどれだけ動かすことができるか」ということです。そこで、昨日の授業で「もっと音や音楽を多くしていくことができなかつたのか」という視点で振り返っていただければと思います。例えば、創作の授業で「音を出しながら追求してみましょう」と指示した場合、生徒がなかなか音を出さない授業があります。音を出してもらいたい場合、音を出したくなるような前振りがあるか、音を出さざるを得ないような状況設定があるか、この二つが必要になるわけです。昨日の授業であれば、「自分で試して確認してみましょう」という場面で、「自分の作品を友達に聴いてもらって、どう思うか教えてもらいましょう」と指示すれば、音を出さざるを得なくなるわけです。このように「どうすれば子どもたちが音を出し、その音に反応しながら授業が展開していくか」というときの言葉がけについて、先生方にいろいろ工夫していただければと思っています。それから、ドレミソラとドレミファソの違いで、「ソラとファソしか違わないので、あまり変化がでないかもしれないね」という場面がありました。ただ、ドレミソラについては主音を変えていくことによって、呂、律、民謡など新たな音階が生まれてきますので、使う音は同じだけれど、主音をずらしていくことによって新たなものを見つけていく可能性もあると思いました。さらに、自分でどの音階を使うか選んでいくところでは、その前にサンプル的に「これをこう使うとこうなる」と紹介する場面を挟むことができれば、もう少し子どもたちが興味をもてたかと思いました。最後に、生徒が創作した作品の発表の際、「そらみみか」という歌詞のところ子どもたちも湧きましたが、授業を参観した先生方も湧きましたね。脇田先生の授業で心が動かされたのだと思います。音階を使って旋律を

つくる際に、音階の特徴が子どもたちに与えるもの。ここから学ばせていただけることがたくさんあったのではないかと
思っております。

続いて表現領域、歌唱の井谷先生の授業についてです。

卒業学年として「ぜんぶ」という歌をどのように解釈して、どのように歌うかを考え、その思いを歌唱によって表して
いく過程を公開していただきました。この授業を通して、生徒は同じ音楽でも自分の生活経験や感情などによって捉え方
や音楽の意味が変わっていくことを実感したのではないかと思います。音楽は音響として存在するのみでなく、その音楽
を受け止める人の感情によって、その人その人の、また、その時その時の意味が生じるものです。生徒は自分の音楽の受
け止め方や解釈などが変わったことを振り返ることによって、そこに自分自身の成長を見ることができたと思います。

授業の中では生徒の気づきを、先生が歌いながら、楽譜を示しながら、言葉を添えながら、音と言葉と視覚でしっかり
確認できるよう丁寧に進めておられました。また、旋律の特徴と強弱の特徴が関連しているというような、[共通事項]ア
に示しております要素同士のかかわりといった面を丁寧に指導されていました。授業では前半の「思いを込めて歌って
くれる？」と先生が仕掛けたところが勝負であったと私は思います。つまり、「思いを込めて歌う」ということはどうやっ
て歌ったらよいか、子どもたちにはつかみどころのない話なのですが、そこで、子どもたちに「思いを込めて歌ってみて
よ」と投げるわけです。子どもたちは、「そう言われてもどうするのか」と思いながら、一生懸命に考えて歌います。そこ
から授業を展開していったのですが、もしかしたら、あの場面で「思いを込めてないと思えるような歌い方をしてみよ
と真逆なことを子どもたちにやらせて、例えば無神経な感じでルルルやラララと歌わせ、「確かに思いが込もっていないね
」「今度は思いを込めて歌ってくれる？」と言って歌うと、たぶん子どもたちは歌い方を変える。その時に、生徒に「何を
変えたのですか？」と投げかけ、思いが込もった時に自分の声はどう変わったか、歌い方をどう変えたかを客観的に見返
し、「あっ、こういう技能の使い分けをしたのだな」と子どもたちが自覚できる場面をつくるのもう一步踏み込んだ学習が
できたと思っています。グループでパートごとに歌っている時に、ソプラノとアルトが合わせる場面では、最初はソプラ
ノとアルトに分かれていたのですが、「隣にいないとハモリにくい」と言った子どもがいました。一人一人交互にソプラノ・
アルトという並び方になり、その後、子どもたちが歌ってきれいにハーモニーをとっておりましたが、あのようなことが
できること自体、これまで井谷先生のご指導のもとで、子どもたちがしっかり力をつけてきた、また、他のパートを聴き
ながら自分の音をとることによってハーモニーをつくるんだ、ということをしっかり学んでこられた成果が見られたと思
っております。最後に子どもたちが1、2年時に歌った歌を聴いた場面で、「1年生と2年生の時だと全然違う」と言いな
がら、自分たちの姿を振り返っていました。各学校において卒業式の歌など毎年同じ歌を歌っている学校もあろうかと思
います。卒業式が近いから「去年も歌ったから歌えるよね」とただ2、3回練習して終わるのではなく、「去年も歌ったこ
の歌を、卒業する私たちはどう思い、どう歌うのか」ということを考えさせ、2、3時間程度の題材として子どもたちが
あれだけ成長することができる、このような題材構成からぜひ多くのことを学びたいと思いました。

私たちの研究や研修は、授業がなければ、またそこに子どもの姿がなければ成立しません。公開授業、研究演奏にあたり
様々にご理解ご協力いただきました関係校の校長先生はじめ、教職員の皆様、保護者の皆様、そして何よりも慣れない
環境の中で日頃の学習の成果を發揮し生き生きと音楽と関わる姿を見せてくれた児童生徒の皆さんに心より感謝を申し上げ
ます。また、このような素晴らしい機会を設定していただきました大会長の神崎信彦先生、実行委員長の酒井千佳先生
をはじめとする実行委員の皆様、授業者の先生方に心より敬意を表するものでございます。

本大会のご成功にお祝いを申し上げますとともに、ご参会の皆様の一層のご活躍をご祈念申し上げます、講評とさせていただきます。ありがとうございました。

平成30年度 全日本音楽教育研究会全国大会（小・中学校部会大会）和歌山大会

◆ 中学校部会総会 ◆

日時：平成30年11月8日（木） 13:30～14:40

会場：和歌山市民会館 小ホール



中学校部会総会は、北海道副部会長、横山 学先生の開会の言葉で始まりました。

風見 章部会長の挨拶、和歌山大会会長の神崎 信彦先生の歓迎の言葉に続き、文部科学省初等中等教育局教育課程課教
科調査官の臼井 学先生よりご祝辞をいただきました。その後、荒川 徳子事務局長より、6月に江東区文化センターで行
われた全国理事会の報告、風見 章部会長より会則改正の報告、志村 誠一郎調査部部長より今年度の調査研究報告、退会
役員の方々へ感謝状贈呈が行われました。

最後に沖縄県支部長の山里 望先生より前年度大会（沖縄大会）の謝辞と、東京都副部会長の角 康宏先生より次回大会
（東京大会）の紹介が行われ、中国地区副部会長、木村 一也先生の閉会の言葉で中学校部会総会は幕を閉じました。

◆公開授業レポート◆

日時：平成30年11月8日（木）

会場：和歌山市民会館（小ホール、市民ホール）

研究主題 『一人一人の確かな学びを生かす音楽の授業づくり』



【創作】第1学年

題材名 「言葉のもつリズムや抑揚を手がかりに、簡単な旋律をつくろう」

指導者 和歌山市立楠見中学校 教諭 脇田 裕己

自作の俳句・川柳で、言葉のもつリズムや抑揚を手がかりに、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら旋律をつくる授業であった。まず、「まいど」「おおきに」の一音一音を星に例えて、イントネーションから音の高低を書かせる。そして、どの文字が輝いて聞こえるかを「1等星」「2等星」という表現をすることでイントネーションを視覚化していた。生徒にとっては視覚的に音をイメージできる、わかりやすい説明であった。

その後、先生が五音音階（陽音階、陰音階、沖縄音階）を提示し、グループ学習では、生徒は自分のイメージに合った音階を選び、創意工夫して旋律をつくっていた。それぞれの旋法から受ける曲の特徴がはっきりしているため、生徒の思いを音にして伝えやすいと思った。生徒は、自分がつくった旋律が音になることに喜びを感じていた。また、生徒が作った作品は、川柳に書かれた思いを、意図をもって旋律に表現することができていると感じた。



【歌唱】第3学年

題材名 「情感をこめた歌い方を工夫しよう」

教材名：『ぜんぶ』

指導者 和歌山市立伏虎義務教育学校 教諭 井谷 真奈美

「歌詞のないところは、言葉にならない何かがある」—作曲家である相澤直人さんの言葉である。合唱曲「ぜんぶ」～卒業式バージョン～を和歌山市立伏虎義務教育学校では3年間かけて取り組む。同じ曲でも、学年が進むごとに多感な時期の生徒たちが受けるイメージは一年一年変化する。中1、中2の頃の自分たちの歌声の記録を改めて聴き返しながら、しみじみと振り返っていた。懐かしさの中に、成長してきた姿をイメージできたのではないかと思う。授業では特にヴォカリーズや各パートのかけ合いなどを含む曲の終わり部分の表現の工夫を行った。「思いを込めて歌ってくれる？」という先生の投げかけに対して、「大切な思い出をそっとpで表したい」「ルルル…からラララ…へ変わるところは、楽しかった思い出を表すように明るい響きに」「喜怒哀楽を思い出しながら歌う」など、生徒の返答が印象的だった。



◆ワークショップ◆

日時：平成30年11月8日（木） 14:40～16:40

会場：和歌山市民会館



W1 「歌唱1」：「合唱の魅力」（講師 若松 敏氏 田久保 裕一氏）

作曲家 若松 敏氏の合唱曲「さよなら！夏」「かけがえのないこと」「最後の一步 最初の一步」「いつだって」の4曲について、作曲家ご本人の指揮と、指揮者 田久保 裕一氏のお二人で、曲の解説、アナリーゼを深めていった。教材研究の視点で合唱曲の魅力を引き出すことを探りながら、参加者が実際に歌い、楽しく研修することができた。



W2 「歌唱2」：「楽譜を読む・楽譜の行間を読む」（講師 相澤 直人 氏）

音の3要素（ピッチ、ボリューム、トーン）、音楽の3要素（リズム、メロディ、ハーモニー）の説明から入り、音符と音符の間に見えるものを伝えたい、という内容の講座であった。研修会の最後に相澤先生作曲の「ぜんぶ」の合唱練習をした。その中で、音色の座標軸（声の音色）というものを使って、歌詞に合った曲想を生み出すため、声の音色を工夫して歌うトレーニングを行った。歌詞の中に「泣くこと、笑うこと、怒ること、喜ぶこと」というフレーズがあり、この1フレーズの中で4種の音色を使い分けて歌うという離れ技を試みた。とても味わいのある表現になった。なるほどと感じた。

W3 「能楽」：「能楽体験教室」（講師 観世流能楽師 小林 慶三 氏 橋本 忠樹 氏）

「能楽」について、発祥から現在に至るまでの歴史、能面や装束、演目の種類などについてのレクチャーに始まり、実演や体験を通して、能という古典芸能に触れることができた貴重な内容であった。特に「羽衣」の謡の体験では、旋律を少しずつ区切ってまねて謡い、能独特の声の音色や節回しを学ぶことができた。最後に、本物の能装束の着付けを実際に見せていただいた。ポイントを説明していただきながら、あっという間に「羽衣」の天人（シテ）に仕上がっていく様は見事であった。豪華な衣装にもため息が漏れた。



W4 「鑑賞」：「音楽鑑賞のヒントとアイデア」（講師 江田 司 氏）

「ブラジル」と「白鳥」を実際に聴いて、教材分析をもとにした音楽鑑賞のヒントとアイデアをわかりやすく教えていただいた。「教材研究の大切さ（どういうビジョンをもつのか）」「活動にはビジョンがセットになっている」「音楽を形づくる要素一つずつに意識を向ける」「聴き取ったことを引き出す魔法の言葉は・・・心に残ったことを書いてごらん」等の言葉が印象的であった。参加者自身が体を使った活動を通して、音楽の構造を聴き取ることを体験することができた。

W5 「創作」：「『音楽の力』を知る・感じる・考える」（講師 田中 健次 氏）

始まってすぐに、声は出さずに口の形だけで「ラーメン」「アーメン」「カレーライス」「ハレー彗星」などの言葉を判断してグループ分けをするというゲームから始まり、楽しく意欲を高める音楽の授業づくりのヒントがぎっしり詰まったワークショップであった。クイズをしてからの鑑賞や日本音楽、映画「未知との遭遇」にも登場するハンドサインの効果、「もしあなたが新人演歌歌手の敏腕プロデューサーだったらどうする？」等、授業ですぐ扱えるものをご紹介いただいた。後半は、音楽の学びとは何か、その学びは子どもにとってなぜ必要なのかを考え、気付かされるお話で、明日からの授業改善につながる充実した内容であった。



◆ 記念講演 ◆

日時：平成30年11月9日（金） 11:40～12:50
会場：和歌山県立文化会館大ホール
講師：澤 和樹 氏（東京藝術大学第10代学長・ヴァイオリニスト）



「人生100年時代～音楽との出会いを考える」という演題で、お母様の読み聞かせてくださった「3匹の子豚」の絵本がきっかけでヴァイオリンに出会ったエピソードなどを交え、芸術特に音楽の持つ力を医療や科学で目に見える形にして役に立てる可能性など、興味深いお話を伺うことができた。音楽による感動には、ワクワクとした（ときめき、期待）緊張に向かうものと、ジーンとした（同情、共感、親しみ）緊張から解き放たれたものがあり、その緊張と弛緩を曲の中に巧みに配置することによって感動が与えられる。音楽の力は、文明の発達によって乱された自然のサイクルやリズムを正常に取り戻す働きがあるのではないかと。ぜひ、子どもたちが素晴らしい音楽と出会い、音楽の力を実感できるように導いてほしいと話された。



後半の演奏の合間には、40年間を共にした名器との出会いについてもご披露くださり、「タイスの瞑想曲」「愛の挨拶」「愛の悲しみ」等の癒しの音楽の後、最後は「情熱大陸」の演奏で締めくくられた。音楽の言語を超えた素晴らしい力を改めて感じることもできる、清らかで豊かな時間となった。

◆ 研究演奏 ◆

日時：平成30年11月9日(金) 10:05~11:10 会場：和歌山県民文化会館大ホール

<プログラム>

1. 器楽 和歌山大学教育学部附属小学校

《串本節》 和歌山県民謡 大柿かおる 編曲

和歌山大学教育学部附属小学校 指導者 内 垣 美 佳



2. お囃子・獅子舞 和歌山市立加太小学校

《加太のお囃子と獅子舞》

和歌山市立加太小学校 指導者 畑 中 義 樹
小 西 亨



3. 合唱 和歌山市立広瀬小学校

《紀州は海の町》 梅田恵以子 作詞 森川隆之 作曲
《いつまでも このままで~天神崎の四季~》
吉田あやこ 作詞 森川隆之 作曲

和歌山市立広瀬小学校 指導者 阿久根 正 俊



4. 合唱 和歌山市立日進中学校合唱部

《紀の国のこどもうた 2 より いつつの手遊びうた》
《紀の国のこどもうた 3 より ことばあそびうた》
松下 耕 作曲

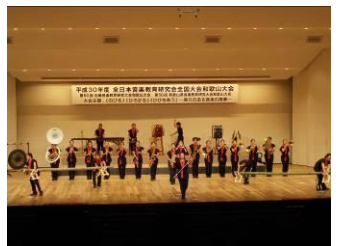
和歌山市立日進中学校合唱部 指導者 久 保 真 紀



5. マーチング 紀の川市立打田中学校吹奏楽部

《日本民謡メドレー》 岩井直溥 編曲
《八木節》 山下国俊 編曲
《まりと殿様》 泉真佐男 編曲

紀の川市立打田中学校吹奏楽部 指導者 内 川 雅 子



6. 合同演奏

《明日へと》 ウインズ平坂 作詞・作曲 萩田光雄 編曲



Information

全日音研中学校部会ホームページも是非ご覧ください。 <http://zennichionken-jhs.jp/>